

表紙

無機化学

目次

第Ⅰ部	非金属元素	3
1	水素	3
1.1	性質	3
1.2	同位体	3
1.3	製法	3
1.4	反応	3
2	貴ガス	3
2.1	性質	3
2.2	生成	3
2.3	ヘリウム	3
2.4	ネオン	3
2.5	アルゴン	3
3	ハロゲン	4
3.1	単体	4
3.2	ハロゲン化水素	5
3.3	ハロゲン化銀	6
3.4	次亜塩素酸塩	6
3.5	塩素酸カリウム	6
4	酸素	7
4.1	酸素原子	7
4.2	酸素	7
4.3	オゾン	7
4.4	酸化物	8
4.5	水	8
5	硫黄	9
5.1	硫黄	9
5.2	硫化水素	9
5.3	二酸化硫黄（亜硫酸ガス）	10
5.4	硫酸	11
5.5	チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）	11
5.6	重金属の硫化物	12
6	窒素	12
6.1	窒素	12
6.2	アンモニア	12
6.3	一酸化二窒素（笑気ガス）	13
6.4	一酸化窒素	13

6.5	二酸化窒素	13
6.6	硝酸	13
7	リン	14
7.1	リン	14
7.2	十酸化四リン	14
7.3	リン酸	14
8	炭素	15
8.1	炭素	15
8.2	一酸化炭素	16
8.3	二酸化炭素	16
9	ケイ素	17
9.1	ケイ素	17
9.2	二酸化ケイ素	17
第Ⅱ部	典型金属	19
10	アルカリ金属	19
10.1	単体	19
10.2	水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）	20
10.3	炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム	20
11	2 族元素	22
11.1	単体	22
11.2	酸化カルシウム（生石灰）	22
11.3	水酸化カルシウム（消石灰）	22
11.4	炭酸カルシウム（石灰石）	23
11.5	塩化マグネシウム・塩化カルシウム	23
11.6	硫酸カルシウム	23
11.7	硫酸バリウム	23
12	12 族元素	24
12.1	単体	24
12.2	酸化亜鉛（亜鉛華）・水酸化亜鉛	25
12.3	塩化水銀（Ⅰ）・塩化水銀（Ⅱ）	25
13	アルミニウム	26
13.1	アルミニウム	26
13.2	酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム	26
13.3	ミョウバン・焼きミョウバン	26
14	スズ・鉛	27
14.1	単体	27
14.2	塩化スズ（Ⅱ）	27

14.3	酸化鉛 (IV)	28
14.4	鉛の難溶性化合物	28
第 III 部 遷移金属		29
15	鉄・コバルト・ニッケル	29
15.1	鉄	29
15.2	硫酸鉄 (II) 7 水和物	30
15.3	塩化鉄 (III) 6 水和物	31
15.4	鉄イオンの反応	31
15.5	塩化コバルト (II)	31
15.6	硫酸ニッケル (II)	31
16	銅	32
16.1	銅	32
16.2	硫酸銅 (II) 5 水和物	32
16.3	銅 (II) イオンの反応	33
16.4	銅の合金	33
17	銀	34
17.1	銀	34
17.2	銀 (I) イオンの反応	34
17.3	難溶性化合物の溶解性	35
18	クロム・マンガン	36
18.1	単体	36
18.2	クロム酸カリウム・二クロム酸カリウム	36
18.3	過マンガン酸カリウム	36
18.4	マンガンの安定な酸化数	37
第 IV 部 APPENDIX		38
A	気体の乾燥剤	38
B	水の硬度	38
C	金属イオンの難溶性化合物	39
D	錯イオンの命名法	40
E	金属イオンの系統分離	41

第 I 部

非金属元素

1 水素

1.1 性質

- ① 色② 臭の③
- 最も④
- 水に溶け⑤

1.2 同位体

^1H 99% 以上 ^2H (⑥) 0.015% ^3H (⑦) 微量

1.3 製法

- ナフサの電気分解 [工業的製法](#)
- ⑧ に⑨ を吹き付ける [工業的製法](#)
- ⑩ (⑪) の電気分解
- ⑫ が⑬ 金属と希薄強酸
[例](#) $\text{Fe} + 2\text{HCl} \longrightarrow \text{FeCl}_2 + \text{H}_2 \uparrow$
[例](#) $\text{Zn} + 2\text{HCl} \longrightarrow \text{ZnCl}_2 + \text{H}_2 \uparrow$
- 水素化ナトリウムと水

1.4 反応

- 水素と酸素 (爆鳴気の燃焼)
- 加熱した酸化銅 (II) と水素

2 貴ガス

⑭ , ⑮ , ⑯ , ⑰ , Xe, Rn

2.1 性質

- ⑱ 色⑲ 臭
- 第 18 族元素であり、電子配置がオクテットを満たすため反応性が低い
- イオン化エネルギーが極めて大きい
- 電子親和力が⑳
- 電気陰性度が㉑

2.2 生成

^{40}K の電子捕獲

2.3 ヘリウム

化学式: He 浮揚ガス

2.4 ネオン

化学式: Ne ネオンサイン

2.5 アルゴン

化学式: Ar N_2 , O_2 に次いで 3 番目に空気中での存在量が多い (約 1%)。

3 ハロゲン

3.1 単体

3.1.1 性質

化学式	F ₂	Cl ₂	Br ₂	I ₂
分子量	小			大
分子間力	弱			強
反応性	強			弱
沸点・融点	低			高
常温での状態	②②	②③	②④	②⑤
色	②⑥ 色	②⑦ 色	②⑧ 色	②⑨ 色
特徴	③⑩ 臭	③⑪ 臭	揮発性	③⑫ 性
H ₂ との反応	③⑬ でも爆発的に反応	③⑭ でも③⑮ で爆発的に反応	③⑯ して③⑰ により反応	高温で平衡状態③⑱ して③⑲ により一部反応
水との反応	水を酸化して酸素と④⑰ 反応	④⑱	④⑲	④⑳ ④㉑
用途	保存が困難 Kr や Xe と反応	④㉒ による④㉓ 作用	C=C や C≡C の検出	④㉔ 反応で④㉕ 色

3.1.2 製法

- フッ化水素ナトリウム KHF₂ のフッ化水素 HF 溶液の電気分解 [工業的製法](#)
KHF₂ → KF + HF
- ④⑲ の電気分解 [塩素](#) [工業的製法](#)
- ④⑳ に⑤① を加えて加熱 [塩素](#)
- ⑤② と⑤③ [塩素](#)
- ⑤④ と⑤⑤ [塩素](#)
- 臭化マグネシウムと塩素 [臭素](#)
MgBr₂ + Cl₂ → MgCl₂ + Br₂
- ヨウ化カリウムと塩素 [ヨウ素](#)
2KI + Cl₂ → 2KCl + I₂

3.1.3 反応

- フッ素と水素
- 塩素と水素
- 臭素と水素
- ヨウ素と水素
- フッ素と水
- 塩素と水
- 臭素と水
- ヨウ素の固体がヨウ化物イオン存在下で三ヨウ化物イオンを形成して溶解する反応

3.1.4 塩素発生実験の装置

$\text{MnO}_2 + 4\text{HCl} \xrightarrow{\Delta} \text{MnCl}_2 + \text{Cl}_2 \uparrow + 2\text{H}_2\text{O}$
 $\text{Cl}_2, \text{HCl}, \text{H}_2\text{O}$
↓(56) に通す (HCl の除去)
 $\text{Cl}_2, \text{H}_2\text{O}$
↓(57) に通す (H₂O の除去)
 Cl_2

3.1.5 塩素のオキソ酸

オキソ酸…(58)

+ VII	(59)	(60)	
+ V	(61)	(62)	
+ III	(63)	(64)	
+ I	(65)	(66)	

3.2 ハロゲン化水素

3.2.1 性質

化学式	HF	HCl	HBr	HI
色・臭い	(67) 色(68) 臭			
沸点	20℃	−85℃	−67℃	−35℃
水との反応	(69)			
水溶液 (強弱)	(70)	(71)	(72)	(73)
	(74)	<< (75)	< (76)	< (77)
用途	(78) と反応 ⇒ ポリエチレン瓶	(79) の検出 各種工業	半導体加工	インジウムスズ 酸化物の加工

3.2.2 製法

- (80) に(81) を加えて加熱 (82)) フッ化水素
- (83) と(84) 塩化水素 工業的製法
- (85) に(86) を加えて加熱 塩化水素 (87) 酸・(88) 酸の追い出し

3.2.3 反応

- 気体のフッ化水素がガラスを侵食する反応
- フッ化水素酸（水溶液）がガラスを侵食する反応
- (89) による(90) の検出

3.3 ハロゲン化銀

3.3.1 性質

化学式	AgF	AgCl	AgBr	AgI
固体の色	⑨① 色	⑨② 色	⑨③ 色	⑨④ 色
水との反応	⑨⑤	⑨⑥		
光との反応	⑨⑦	感光性 (→⑨⑧)		

3.3.2 製法

- 酸化銀 (I) にフッ化水素酸を加えて蒸発圧縮

- ハロゲン化水素イオンを含む水溶液と⑨⑨

3.4 次亜塩素酸塩

3.4.1 性質

⑩⑩ 剤として反応 (⑩① ・ ⑩② 作用)

3.4.2 製法

- 水酸化ナトリウム水溶液と塩素

- 水酸化カルシウムと塩素

3.5 塩素酸カリウム

化学式：⑩③

3.5.1 性質

⑩④ の生成 (⑩⑤ を触媒に加熱)

4 酸素

4.1 酸素原子

同¹⁰⁶ 体：酸素 (O₂),¹⁰⁷ (O₃)

地球の地殻に¹⁰⁸ 存在

地球の地殻における元素の存在率

¹⁰⁹	>	¹¹⁰	>	¹¹¹	>	¹¹²	>	¹¹³	>	¹¹⁴
¹¹⁵		¹¹⁶		¹¹⁷		¹¹⁸		¹¹⁹		¹²⁰
46.6%		27.7%		8.13%		5.00%		3.63%		2.83%
おっ		し		やる		て		か		な

4.2 酸素

化学式：O₂

4.2.1 性質

- ¹²¹ 色¹²² 臭の¹²³
- 沸点 −183°C

4.2.2 製法

- ¹²⁴ 工業的製法
- ¹²⁵ (¹²⁶) の¹²⁷
- ¹²⁸ (¹²⁹) の分解
- ¹³⁰ の熱分解

4.2.3 反応

¹³¹ 剤としての反応

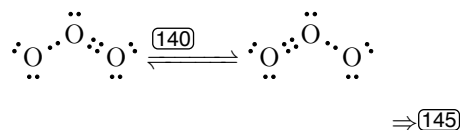
4.3 オゾン

化学式：¹³²

4.3.1 性質

- ¹³³ 臭 (¹³⁴ 臭) を持つ¹³⁵ 色の¹³⁶ (常温)
- 水に¹³⁷
- ¹³⁸ ・¹³⁹ 作用

オゾンにおける酸素原子の運動



4.3.2 製法

酸素中で¹⁴⁶ /強い¹⁴⁷ を当てる

4.3.3 反応

- ¹⁴⁸ 剤としての反応

- 湿らせた¹⁴⁹ を¹⁵⁰ 色に変色

4.4 酸化物

	塩基性酸化物	両性酸化物	酸性酸化物
元素	(151) 元素	(152) 元素	(153) 元素
水との反応	(154)	(155)	(156) ((157))
中和	(158) と反応	(159) と反応	(160) と反応

両性酸化物…(161) ((162)) ,(163) ((164)) ,(165) ((166)) ,(167) ((168)) *1

- 例 $\text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{H}_2\text{CO}_3$
- 例 $\text{SO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow \text{H}_2\text{SO}_3$
- 例 $3\text{NO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2\text{HNO}_3 + \text{NO}$

4.4.1 反応

- 酸化銅（Ⅱ）と塩化水素
- 酸化アルミニウムと硫酸
- 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

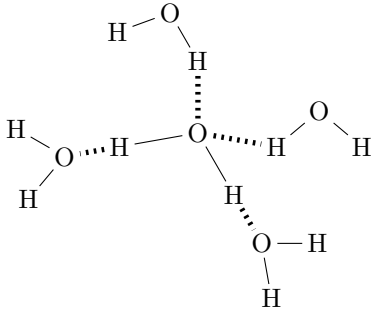
4.5 水

4.5.1 性質

- (169) 分子
- 周りの4つの分子と(170) 結合
- 異常に(171) 沸点
- (172) 結晶構造（密度：固体(173) 液体）
- 特異な(174)

4.5.2 反応

- 酸化カルシウムと水
- 二酸化窒素と水

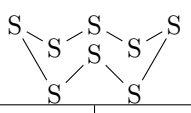
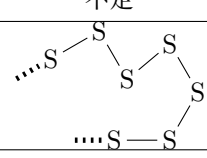


*1 覚え方：ああすんなり

5 硫黄

5.1 硫黄

5.1.1 性質

名称	(175) 硫黄	(176) 硫黄	(177) 硫黄
化学式	(178)	(179)	(180)
色	(181) 色	(182) 色	(183) 色
構造	(184) 結晶	(185) 結晶	(186) 固体
融点	113°C	119°C	不定
構造			
CS ₂ との反応	(187)	(188)	(189)

CS₂… 無色・芳香性・揮発性 ⇒(190) 触媒

5.1.2 反応

- 高温で多くの金属（Au, Pt を除く）と反応

例 Fe

- 空気中で(191) 色の炎を上げて燃焼

5.2 硫化水素

化学式：(192)

5.2.1 性質

- (193) 色(194) 臭
- (195) 性

$$\begin{cases} (196) & K_1 = 9.5 \times 10^{-8} \text{ mol/L} \\ (197) & K_2 = 1.3 \times 10^{-14} \text{ mol/L} \end{cases}$$
- (198) 剤としての反応
- 重金属イオン M²⁺ と(199) を生成

5.2.2 製法

- 硫化鉄（II）と希塩酸

- 硫化鉄（II）と希硫酸

5.2.3 反応

- 硫化水素とヨウ素

- 酢酸鉛（II）水溶液と硫化水素 (200) の検出

5.3 二酸化硫黄（亜硫酸ガス）

化学式：(201)

電子式：

5.3.1 性質

- (202) 色、(203) 臭の(204)
- 水に(205)
- (206) 性
(207) $K_1 = 1.4 \times 10^{-2} \text{ mol/L}$
- (208) 剤 (209) 作用)
- (210) 剤 (211) などの強い還元剤に対して)

5.3.2 製法

- 硫黄や硫化物の(212) [工業的製法](#)

- (213) と希硫酸

- (214) と(215)

5.3.3 反応

- 二酸化硫黄の水への溶解
- 二酸化硫黄と硫化水素
- 硫酸酸性で過マンガン酸カリウムと二酸化硫黄

5.4 硫酸

5.4.1 性質

- ②16 色②17 臭の②18
- 水に②19
- 溶解熱が②20
- ②21 を加えて希釈
- ②22 性で密度が②23 く、②24 が大きい **濃硫酸**
- ②25 性・②26 作用 **濃硫酸**
- ②27 **希硫酸**
- ②28 $K_1 > 10^8 \text{ mol/L}$
- ②29 **濃硫酸** (②30 、②31 の濃度が小さい)
- ②32 剤として働く **熱濃硫酸**
- ②33 (②34 ,②35)、②36 と難溶性の塩を生成 **希硫酸**

5.4.2 製法

②37 法 **工業的製法**

1. 黄鉄鉱 FeS_2 の燃焼

()

2. ②38 触媒で酸化

3. ②39 に吸収させて②40 とした後、希硫酸を加えて希釈

5.4.3 反応

- 硝酸カリウムに濃硫酸を加えて加熱

- スクロースと濃硫酸

- 水酸化ナトリウムと希硫酸

- 銅と熱濃硫酸

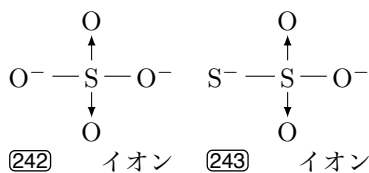
- 銀と熱濃硫酸

- 塩化バリウム水溶液と希硫酸

5.5 チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）

化学式：②41

電子式：

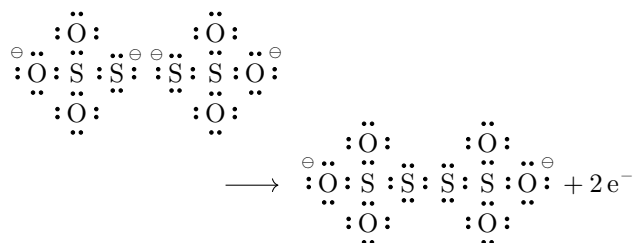


5.5.1 性質

- 無色透明の結晶（5 水和物）で、水に溶けやすい。
- ②44 剤として反応

例 水道水の脱塩素剤（カルキ抜き）

②45



5.5.2 製法

亜硫酸ナトリウム水溶液に硫黄を加えて加熱

5.5.3 反応

ヨウ素とチオ硫酸ナトリウム

5.6 重金属の硫化物

酸性でも沈澱（全液性で沈澱）						中性・塩基性で沈澱（酸性では溶解）			
Ag ₂ S	HgS	CuS	PbS	SnS	CdS	NiS	FeS	ZnS	MnS
(246) 色	(247) 色	(248) 色	(249) 色	(250) 色	(251) 色	(252) 色	(253) 色	(254) 色	(255) 色
(256) イオン化傾向						(257)			
(258) 塩の溶解度積 (K_{sp})						(259)			

6 窒素

6.1 窒素

化学式：N₂

6.1.1 性質

- (260) 色(261) 臭の(262)
- 空気の 78% を占める
- 水に溶け(263) ((264) 分子)
- 常温で(265) (食品などの(266))
- 高エネルギー状態 ((267) ・(268)) では反応

6.1.2 製法

- (269) [工業的製法](#)
- (270) の(271)

6.1.3 反応

- 窒素と酸素

{

- 窒素とマグネシウム

6.2 アンモニア

化学式：(272)

6.2.1 性質

- (273) 色(274) 臭の(275)
- (276) 結合
- 水に(277) ((278) 置換)
- (279) 性
(280)

$$K_1 = 1.7 \times 10^{-5} \text{ mol/L}$$

- (281) の検出
- 高温・高圧で二酸化炭素と反応して、(282) を生成

6.2.2 製法

- (283) [工業的製法](#)
- (284) 温(285) 圧で、(286) ((287)) 触媒
- (288) と(289) を混ぜて加熱

6.2.3 反応

- 硫酸とアンモニア
- 塩素の検出
- アンモニアと二酸化炭素

6.3 一酸化二窒素（笑気ガス）

化学式：(290)

6.3.1 性質

- 無色、少し甘味のある気体
- 水に少し溶ける
- 常温では反応性が低い
- (291) 効果

6.3.2 製法

(292) の熱分解

6.4 一酸化窒素

化学式：(293)

6.4.1 性質

- (294) 色(295) 臭の(296)
- 中性で水に溶けにくい
- 空気中では(297) とすぐに反応
- 血管拡張作用・神経伝達物質

6.4.2 製法

(298) と(299)

6.4.3 反応

酸素と反応

6.5 二酸化窒素

化学式：(300)

6.5.1 性質

- (301) 色(302) 臭の(303)
- 水と反応して(304) 性 (305) の原因
- 常温では(306) ((307) 色) と(308)

- 140°C 以上で熱分解

6.5.2 製法

(309) と(310)

6.6 硝酸

化学式：(311)

6.6.1 性質

- (312) 色(313) 臭で(314) 性の(315)
- 水に(316)
- (317) 性
(318) $K_1 = 6.3 \times 10^{-1} \text{mol/L}$
- (319) に保存 (320))
- (321) 剤としての反応 (希硝酸)
- (322) 剤としての反応 (濃硝酸)
- イオン化傾向が小さい Cu、Hg、Ag も溶解
- (323) , (324) , (325) , (326) , (327) は(328) が
生じて不溶 (濃硝酸)
= (329)
- (330) ((331) : (332) = 3:1) は、Pt, Au も溶解
- NO_3^- は(333) \Rightarrow (334) で検出

6.6.2 製法

- (335)

1. (336) 触媒で(337) を(338)

2. (339)

3. (340) と反応

- (341) に(342) を加えて加熱

6.6.3 反応

- アンモニアと硝酸

- 硝酸の光分解

- 亜鉛と希硝酸

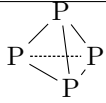
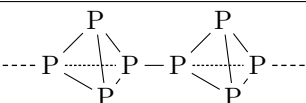
- 銀と濃硝酸

7リン

7.1リン

7.1.1 性質

三種類の同(343)体がある

名称	(344)リン	(345)リン	黒リン
化学式	(346)	(347)	P ₄
融点	44°C	590°C*2	610°C
発火点	35°C (348)に保存	260°C (349)	-
密度	1.8g/cm ³	2.16g/cm ³	2.7g/cm ³
毒性	(350)	(351)	(352)
構造			略
CS ₂ への溶解	(353)	(354)	(355)

7.1.2 製法

- リン鉱石にケイ砂とコークスを混ぜて強熱し、蒸気を水で冷却 (黄リン) (工業的製法)
- 空気を遮断して黄リンを 250°C で加熱 (赤リン)
- 空気を遮断して黄リンを 200°C、1.2 × 10⁹Pa で加熱 (黒リン)

7.2 十酸化四リン

化学式：(356)

7.2.1 性質

- 白色で昇華性のある固体
- (357) (水との親和性が(358))
- 乾燥剤
- 水を加えて加熱すると反応 (359))

7.2.2 製法

(360)

7.2.3 反応

水を加えて加熱

7.3 リン酸

化学式：(361)

7.3.1 性質

- (362) 性
(363) $K_1 = 7.5 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$

7.3.2 反応

- リン酸と水酸化カルシウムの完全中和
- リン酸カルシウムとリン酸が反応して重過リン酸石灰が生成
- リン酸カルシウムと硫酸が反応して過リン酸石灰が生成

8 炭素

8.1 炭素

8.1.1 性質

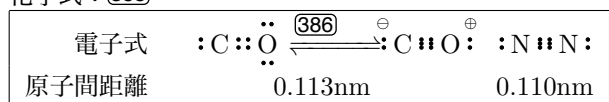
炭素の同³⁶⁴ 体

- ³⁶⁵
- ³⁶⁶ (³⁶⁷)
- 無定形炭素
用途 顔料・脱臭剤（活性炭）
黒色で、黒鉛の美結晶が不規則に集合。電気伝導性を示す。
- ³⁶⁸
用途 医療・材料分野での応用
黒褐色で、60 個の炭素原子がサッカーボール状につながった分子結晶。電気伝導性を示さない。
- グラフェン
用途 半導体材料への応用
黒鉛の平面性六角形状の層のうち一層だけを取り出したもの。電気伝導性を示す。
- カーボンナノチューブ
用途 水素吸蔵・電池電極への応用
グラフェンを円筒状に巻いたもの。電気伝導性を示す。

名称	³⁶⁹	³⁷⁰
特徴	³⁷¹ 色 ³⁷² で屈折率が大きい固体	³⁷³ 色で ³⁷⁴ がある固体
密度	3.5g/cm ³	2.3g/cm ³
構造	³⁷⁵ 方向の ³⁷⁶ 結晶	³⁷⁷ 構造 (³⁷⁸)
硬さ	³⁷⁹	³⁸⁰
沸点	³⁸¹	³⁸²
電気伝導性	³⁸³	³⁸⁴
用途	宝石・カッターの刃・研磨剤	鉛筆・電極

8.2 一酸化炭素

化学式：③⑧⑤



$\left. \begin{array}{l} \text{C, O 電子の持つ③⑨①} \quad \text{による効果} \\ \text{C}\equiv\text{O 間の③⑨②} \quad \text{の差による効果} \end{array} \right\} \text{CO の極性は③⑨③}$

8.2.1 性質

- ③⑨④ 色③⑨⑤ 臭で③⑨⑥ な気体
- 赤血球のヘモグロビンの③⑨⑦ に対して強い③⑨⑧
- ③⑨⑨ 性で水に溶け④⑦⑦。(④⑦① 置換)
- ④⑦② 性、高温で④⑦③ 性(④⑦④ との親和性が非常に高い)

8.2.2 製法

- ④⑦⑤ に④⑦⑥ を吹き付ける 工業的製法

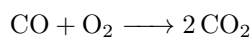
- 炭素の④⑦⑦

- ④⑦⑧ に④⑦⑨ を加えて加熱

- ④⑦⑩ に④⑦⑪ を加えて加熱

8.2.3 反応

- 燃焼



- 鉄の精錬

{×2

8.3 二酸化炭素

8.3.1 性質

- ④⑦② 色④⑦③ 臭で④⑦④ 性(固体は④⑦⑤)
- 大気の 0.04% を占める
- 水に④⑦⑥
- ④⑦⑦ 性

$$\text{④⑦⑧} \quad K_1 = 4.3 \times 10^{-7} \text{ mol/L}$$

8.3.2 製法

- ④⑦⑨ を強熱 工業的製法

- ④⑦⑩ と④⑦⑪

- ④⑦⑫ の熱分解

8.3.3 反応

- 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

- ④⑦⑬ に通じると④⑦⑭ しさらに通じると④⑦⑮

9 ケイ素

9.1 ケイ素

9.1.1 性質

- (426) 色で(427) がある(428) 結晶
- (429)
- (430) に使用（高純度のケイ素）*³
高温にしたり微小の他電子を添加すると電気伝導性が(431) （金属は高温で電気伝導性が(432) ）

9.1.2 製法

- (433) と(434) を混ぜて強熱 (工業的製法)

- (435) と(436) 粉末を混ぜて加熱

9.2 二酸化ケイ素

化学式：(437)

9.2.1 性質

- (438) 色(439) の(440) 結晶
- (441)
- 地球の近く中に多く存在（ケイ砂、石英、水晶）
- (442) 酸化物
- (443) ((444) ・吸着剤) の生成に用いられる
多孔質、適度な数の(445)

9.2.2 反応

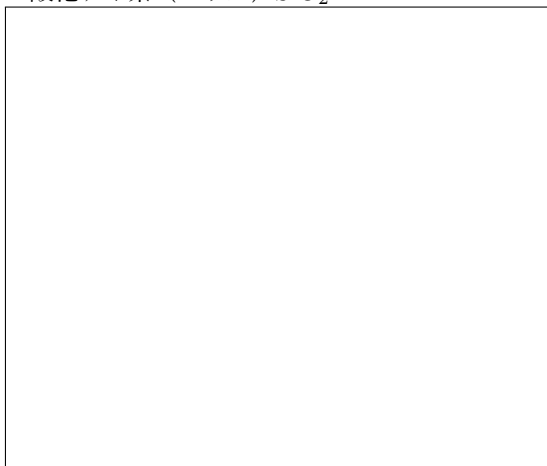
- (446) と反応
- (447) と反応
- (448) や(449) がガラスを侵す反応 ((450) の生成)
- (451) と(452) から(453) の白色ゲル状沈澱が生じる反応
- (454) を加熱してシリカゲルを得る反応

($0 < n < 1$)

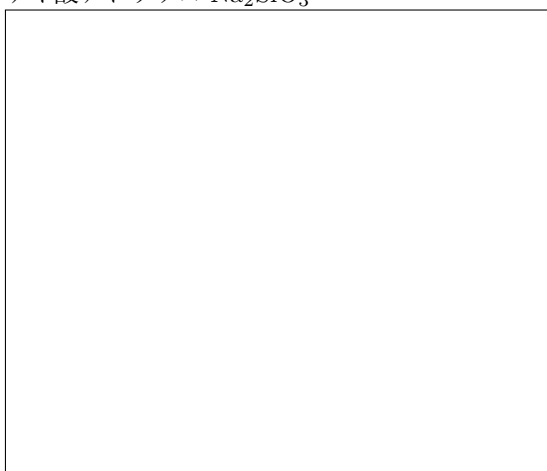
*³ 6N… 太陽電池用、11N… 集積回路用

シリカゲル生成過程での構造変化

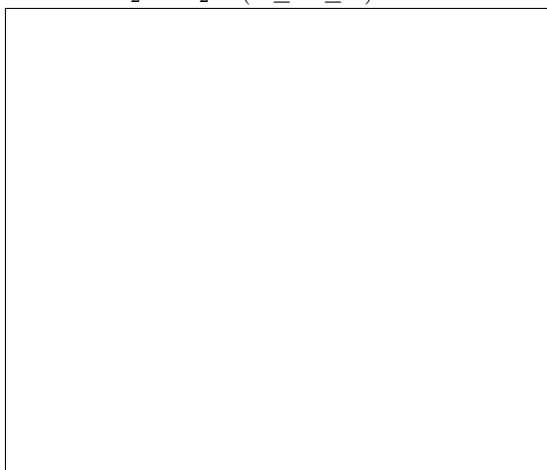
1. 二酸化ケイ素（シリカ） SiO_2



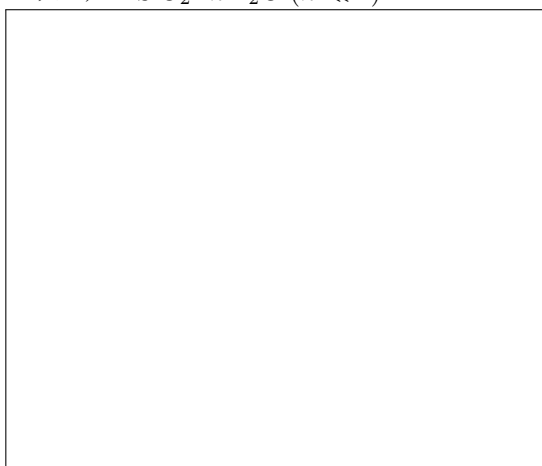
2. ケイ酸ナトリウム Na_2SiO_3



3. ケイ酸 $\text{SiO}_2 \cdot n\text{H}_2\text{O}$ ($0 \leq n \leq 1$)



4. シリカゲル $\text{SiO}_2 \cdot n\text{H}_2\text{O}$ ($n \ll 1$)



第Ⅱ部



典型金属

10 アルカリ金属

10.1 単体

10.1.1 性質

- 銀白色で(455) 金属
- 全体的に反応性が高く、(456) 中に保存
- 原子一個あたりの自由電子が(457) 個 (458) い(459) 結合)
- 還元剤として反応

化学式	Li	Na	K	Rb	Cs
融点	181°C	98°C	64°C	39°C	28°C
密度	0.53	0.97	0.86	1.53	1.87
構造	(460) 格子 (461))				
イオン化エネルギー	大  小				
反応力	小  大				
炎色反応	(462) 色	(463) 色	(464) 色	(465) 色	(466) 色
用途	リチウムイオン 電池の負極	トンネル照明 高速増殖炉の冷却材	磁気センサー 肥料 (K ⁺)	光電池 年代測定	光電管 電子時計 (一秒の基準)

10.1.2 製法

水酸化物や塩化物の(467) (468) 法) [工業的製法](#)

(469) 添加 (470))

10.1.3 反応

- ナトリウムと酸素

- ナトリウムと塩素

- ナトリウムと水

10.2 水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）

化学式：(471)

10.2.1 性質

- (472) 色の固体
- (473) 性
- 水によくとける（水との親和性が(474) ）
- (475) 剤
- 強塩基性

$$\left((476) \quad K_1 = 1.0 \times 10^{-1} \text{mol/L} \right)$$
- 空気中の(477) と反応して、純度が不明
 酸の標準溶液 (478) を用いた中和滴定で濃度決定

$$\left(\quad \right)$$

10.2.2 製法

(479) の(480) （イオン交換膜法）(工業的製法)

10.2.3 反応

- 塩酸と水酸化ナトリウム

- 塩素と水酸化ナトリウム

- 二酸化硫黄と水酸化ナトリウム

- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液

- 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

10.3.1 性質

名称	炭酸ナトリウム	炭酸水素ナトリウム
化学式	(481)	(482)
色	(483) 色	(484) 色
融点	850°C	(485)
液性	(486) 性	(487) 性
用途	(488) や石鹼の原料	胃腸薬・ふくらし粉

10.3.2 製法

(489) (490) 工業的製法

```
graph LR; 491[491] -- 1 --> 492[492]; 492 -- 2 --> 493[493]; 493 -- 5 --> 494[494]; 493 --> 496[496]; 496 --> 495[495]; 495 --> 498[498]; 498 --> 500[500]; 500 --> 495; 497[497] -- 3 --> 495; 498 -- 4 --> 499[499]; 499 --> 501[501]; 501 --> 496; 501 --> 493;
```

1. 502 の503

2. 504 と505

3. 506 に507 を溶解させてから、508 を溶解

4. 509 の510

5. 511 と512

10.3.3 反応

- Na_2CO_3 513 $K_1 = 1.8 \times 10^{-4}$
- NaHCO_3 $\begin{cases} 514 & K_1 = 5.6 \times 10^{-11} \\ 515 & K_2 = 2.3 \times 10^{-8} \end{cases}$

11 2 族元素

516, 517, 518

11.1 単体

11.1.1 性質

化学式	519	520	521	522	523
融点	1282°C	649°C	839°C	769°C	729°C
密度 (g/cm³)	1.85	1.74	1.55	2.54	3.59
524 力	小				大
水との反応	525	526	527	528	529
M(OH) ₂ の水溶性	530	性 (531 性)	532	性 (533 性)	
難溶性の塩	534		535		
炎色反応	536	537	538	539	540
用途	X 線通過窓	フラッシュ	精錬の還元剤	発煙筒	ゲッター

11.1.2 製法

塩化物の541 工業的製法

11.1.3 反応

- マグネシウムの燃焼
- マグネシウムと二酸化炭素
- カルシウムと水

11.2 酸化カルシウム (生石灰)

化学式：542

11.2.1 性質

- 543 色
- 544 との親和性が545 (546)
- 547 酸化物
- 水との反応熱が548 (549)

11.2.2 製法

550 の551

11.2.3 反応

- コークスを混ぜて強熱すると、552 (553) が生成

554 と反応して555 が生成

11.3 水酸化カルシウム (消石灰)

化学式：556

11.3.1 性質

- 557 色
 - 水に558 固体
 - 559
560
 - 水溶液は561
- $K_1 = 5.0 \times 10^{-2}$

11.3.2 製法

562 と563 工業的製法

11.3.3 反応

- 塩素と反応して、564 が生成
- 580°C 以上で565
- 二酸化炭素との反応
- 塩化アンモニウムとの反応

11.4 炭酸カルシウム（石灰石）

化学式：(566)

11.4.1 性質

- (567) 色で、水に(568)
- (569) の形成

11.4.2 反応

- 800°C 以上で(570)

- (571) を多く含む水に(572)

11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム

化学式：(573) ・ (574)

11.5.1 性質

(575) 性があり、水に(576) （水との親和性が(577) ）

(578) 剤 (塩化カルシウム)、(579) 剤

11.5.2 製法

- 海 水 か ら 得 た(580) を 濃 縮 (塩化マグネシウム)

(工業的製法)

- (581) ((582)) (塩化カルシウム) (工業的製法)

11.6 硫酸カルシウム

化学式：(583)

11.6.1 性質

(584) を約 150°C で加熱すると、(585) が生成

(586) を 加 え る と、(587) ・ (588) ・ (589) し て

(590) に戻る

(用途) 医療用ギプス・石膏像・建材

11.7 硫酸バリウム

化学式：(591)

11.7.1 性質

- (592) 色で、水に(593) 固体
- 反応性が(594) く、X 線を遮蔽

12 12 族元素

12.1 単体

12.1.1 性質

化学式	(595)	(596)	(597)
融点	420°C	321°C	-39°C
密度	7.1	8.6	13.6
$M^{2+}aq + H_2S$ (沈澱条件)	(598) 色の(599) ↓ (604)	(600) 色の(601) ↓ (605)	(602) 色の(603) ↓ (606)
特性	高温の水蒸気と反応 (608) 元素	Cd^{2+} は Ca^{2+} と類似 ⇒ イタイイタイ病	(607) を作りやすい (609)
用途	(610) (鉄にメッキ)	ニカド電池 (Ni-Cd)	体温計・蛍光灯

- 12 族の硫化物は(611) や(612) に利用
- HgS は 450°C で消火させると(613) 色に変化

12.1.2 製法

閃亜鉛鉱を焙焼して得た酸化亜鉛に、コークスを混ぜて加工 (工業的製法)

12.1.3 反応

- 高温の水蒸気と反応 (亜鉛)

- 塩酸と反応 (亜鉛)

- 水酸化ナトリウム水溶液と反応 (亜鉛)

12.2 酸化亜鉛（亜鉛華）・水酸化亜鉛

化学式：⑥14 ・ ⑥15

12.2.1 性質

- ⑥16 色で、水に⑥17 固体
- 酸化亜鉛は⑥18
- ⑥19 酸化物/水酸化物
⑥20 ・(強) ⑥21 と反応 Zn^{2+} は、⑥22 とも
⑥23 とも錯イオンを形成

12.2.2 製法

- 亜鉛を燃焼 酸化亜鉛 工業的製法
- 亜鉛イオンを含む水溶液に、少量の⑥24 を加える
水酸化亜鉛

12.2.3 反応

- 酸化亜鉛と塩酸
- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
- 水酸化亜鉛と塩酸
- 水酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
- 水酸化亜鉛の過剰な⑥25 との反応

12.3 塩化水銀（Ⅰ）・塩化水銀（Ⅱ）

化学式：⑥26 ・ ⑥27

12.3.1 性質

- 白色で、水に溶けにくい固体で、微毒 塩化水銀（Ⅰ）
- 白色で、水に少し溶ける固体で、猛毒 塩化水銀（Ⅱ）

12.3.2 製法

水酸化銀（Ⅱ）と水銀の混合物を加熱

13 アルミニウム

13.1 アルミニウム

13.1.1 性質

- 密度が⁶²⁸、⁶²⁹ 金属
- 展性・延性が⁶³⁰、電気・熱伝導率が⁶³¹

電気・熱伝導性が高い金属

⁶³² > ⁶³³ > ⁶³⁴ > ⁶³⁵

- ⁶³⁶ 元素
(⁶³⁷ には⁶³⁸ となり反応しない)
表面の緻密な⁶³⁹ が内部を保護
(⁶⁴⁰、⁶⁴¹、⁶⁴²、⁶⁴³、⁶⁴⁴ *4)
電気分解(⁶⁴⁵ 極)で人工的に厚い酸化被膜をつける製品加工を⁶⁴⁶ と呼ぶ
- イオン化傾向が⁶⁴⁷、⁶⁴⁸ 力が⁶⁴⁹
- ⁶⁵⁰ 反応(多量の⁶⁵¹・⁶⁵² が発生)

13.1.2 製法

- ⁶⁵³ から得た⁶⁵⁴
(⁶⁵⁵) の溶融塩電解 **工業的製法**
- バイヤー法
 - ⁶⁵⁶ を濃い⁶⁵⁷ 水溶液に溶解
 - 溶解しない不純物をろ過して、ろ液を水で希釈して
Al(OH)₃ の種結晶を入れる
 - 成長した⁶⁵⁸ を強熱
- ホールエール法
 - ⁶⁵⁹
Na₃AlF₆ を融解し、酸化アルミニウムを溶解
 - ⁶⁶⁰ 電極で電気分解

陽極	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
陰極	<input type="text"/>

13.1.3 反応

- アルミニウムの燃焼
- アルミニウムと高温の水蒸気
- テルミット反応

13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム

化学式：⁶⁶¹・⁶⁶² 酸化アルミニウムの別称：⁶⁶³

13.2.1 性質

- ⁶⁶⁴ 色で、水に⁶⁶⁵
- ⁶⁶⁶ 酸化物/水酸化物
⁶⁶⁷・(強)⁶⁶⁸ と反応
Al³⁺ は⁶⁶⁹ と錯イオンを形成し、⁶⁷⁰ とは形成しない

13.2.2 製法

- バイヤー法
- アルミニウムイオンを含む水溶液に、少量の⁶⁷¹ を加える **水酸化アルミニウム**

13.2.3 反応

- 酸化アルミニウムと塩酸
- 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液
- 水酸化アルミニウムと塩酸
- 水酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

13.3 ミョウバン・焼きミョウバン

化学式：⁶⁷²・⁶⁷³

13.3.1 性質

- ⁶⁷⁴ 色で、水に⁶⁷⁵ 固体
- ⁶⁷⁶
(⁶⁷⁷ $K_1 = 1.1 \times 10^{-5} \text{ mol/L}$)
- Al³⁺ は価数が⁶⁷⁸ 陽イオン
粘土(⁶⁷⁹ の⁶⁸⁰ コロイド)で濁った水の浄水処理(⁶⁸¹)
- 水への溶解

13.3.2 製法

硫酸化アルミニウムと硫酸カリウムの混合水溶液を濃縮

*4 てつこに

14 スズ・鉛

14.1 単体

14.1.1 性質

化学式	〔682〕	〔683〕
特徴	灰白色で柔らかい金属	青白色で柔らかい金属
融点	232°C	328°C
密度	7.28	11.4
特性	〔684〕 元素	
用途	〔685〕 (鉄にメッキ) 〔688〕	〔686〕 電池の 〔687〕 極 の遮蔽

【合金】

Cu + Sn…〔689〕

Sn + Pb…〔690〕

14.1.2 製法

- 錫石 SnO_2 にコークスを混ぜて加熱 スズ 工業的製法

- 方鉛鉱 PbS を焙焼してから、コークスを混ぜて加熱 鉛 工業的製法

14.1.3 反応

- 鉛と〔691〕 酸

- 鉛と〔692〕 酸

- スズと〔693〕

- 鉛蓄電池における反応

{

 正極

 負極

14.2 塩化スズ（Ⅱ）

14.2.1 性質

〔694〕 剤として働く

14.2.2 製法

スズと〔695〕

14.2.3 反応

塩化鉄（Ⅲ）水溶液と塩化スズ（Ⅱ）水溶液

〔備考〕 塩化スズ（Ⅳ）水溶液と硫化水素

14.3 酸化鉛 (IV)

14.3.1 性質

⑥96 剤として働く

14.3.2 製法

酢酸鉛 (II) 水溶液にさらし粉を加える

14.3.3 反応

酸化鉛 (IV) に濃塩酸を加えて加熱

14.4 鉛の難溶性化合物

14.4.1 性質

- 加熱すると溶けやすい
- ⑥97 紙を用いた⑥98 の検出 (⑥99 色)

第 III 部

遷移金属

d 軌道・f 軌道（内殻）の秋に電子が入っていき、最外殻電子の数は(700)
(701) ・ (702) : f 軌道に入っていく過程)
同族元素だけでなく、同周期元素も性質が似ている。

- 単体は密度が(703) く、融点が(704) 金属
- d 軌道の一部の電子も価電子
- 化合物やイオンは(705) 色のものが多い
- 安定な(706) を形成しやすい ((707))
- 単体や化合物は(708) になるものが多い*5
- 酸化数が $\left\{ \begin{array}{l} \text{小さい} \\ \text{大きい} \end{array} \right\}$ 酸化物は $\left\{ \begin{array}{l} (709) \\ (710) \end{array} \right\}$ 剤

15 鉄・コバルト・ニッケル

15.1 鉄

15.1.1 性質

- 常温で(711) 性
- イオン化傾向が水素より(712) い
(713) と反応 ((714) には(715) となり反応しない)
- (716) と反応して(717) な(718) が生成（酸化被膜）
- 湿った空気中では(719) い(720) を生成

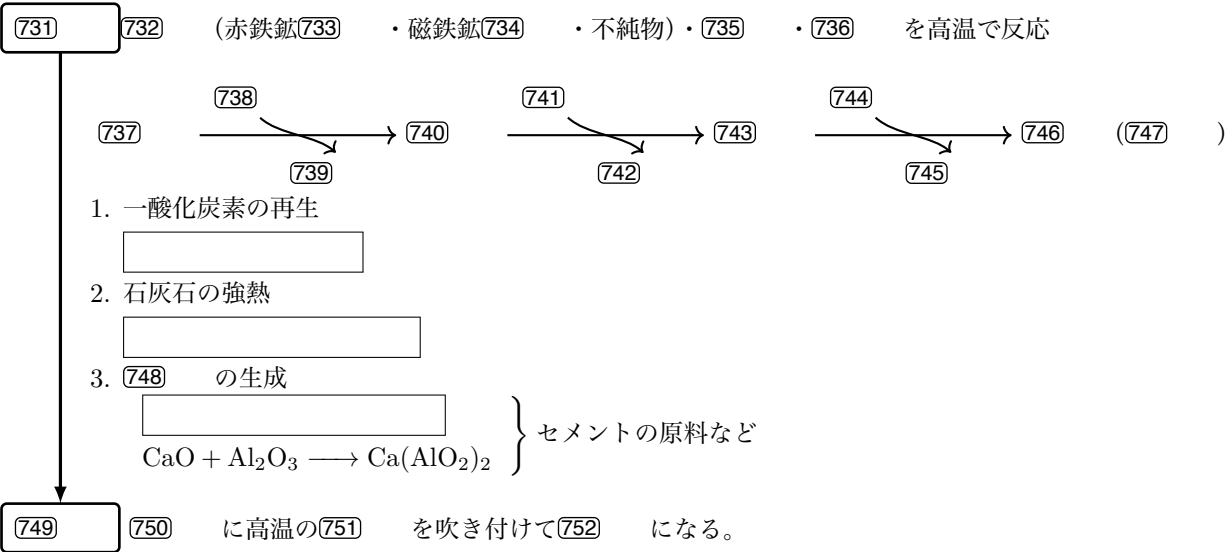
酸化鉄（Ⅲ）	Fe ₂ O ₃	(721) 色	(722) 性
四酸化三鉄	Fe ₃ O ₄	(723) 色	(724) 性
酸化鉄（Ⅱ）	FeO	(725) 色	(726) 性

軟鋼	(727)	(728)	(729)	KS 磁石鋼
C0.2% 未満	C2% 未満	C2% 以上	(730)	Co, W, Cr
加工しやすい	硬くて弾性あり	硬くてもろい	錆びにくい	—
鉄筋・鉄骨	レール・バネ	鋳物	キッチン	人工永久磁石

*5 (例) VsO₅, MnO₂, Fe₃O₄, Pt

15.1.2 製法

鉄の製錬 工業的製法



15.1.3 反応

- 塩酸との反応
- 高温の水蒸気との反応
- 微量に含まれる炭素・鉄・水による(753) (754) などが溶けていたら反応速度上昇)

正極 (755)

負極 (756)
- (757) の生成 (758) 色)
- 速やかに(759) が酸素により酸化
- (760) の脱水
$$\text{Fe}(\text{OH})_3 \longrightarrow \text{FeO}(\text{OH}) + \text{H}_2\text{O} \text{ (酸化水酸化鉄 (Ⅲ) 濃橙色)}$$
$$2\text{Fe}(\text{OH})_3 \longrightarrow \text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot n\text{H}_2\text{O} + (3-n)\text{H}_2\text{O} \text{ (761) 色)}$$
(エバンスの実験)

15.2 硫酸鉄（Ⅱ）7水和物

化学式：(762)

15.2.1 性質

- (763) 色の固体
- Fe^{2+} 半反応式
- 空気中で表面が(764) (765) 色)

15.2.2 製法

鉄に(766) を加えて、蒸発濃縮

15.3 塩化鉄（Ⅲ）6水和物

化学式：767

15.3.1 性質

- 768 色で769 性のある固体
- 770
（ 771 $K_1 = 6.0 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$ ）

15.3.2 製法

鉄に希塩酸を加えてから、塩素を通じる。

15.4 鉄イオンの反応

	NaOH	K ₄ [Fe(CN) ₆]	K ₃ [Fe(CN) ₆]	H ₂ S（酸性）	KSCN
Fe ²⁺ 775 色	772 776 色	Fe ₂ [Fe(CN) ₆]↓ 777 色	KFe[Fe(CN) ₆]↓ 778 色	773 779 色	774 780 色
Fe ³⁺ 783 色	781 784 色	KFe[Fe(CN) ₆]↓ 785 色	Fe[Fe(CN) ₆]aq 786 色	782 787 色	[Fe(NCS)] ²⁺ 788 色

- Fe²⁺, Fe³⁺ は、789 とともに790 とともに錯イオンを形成しない
- ベルリンブルーとターンプルブルーは791

15.5 塩化コバルト（Ⅱ）

化学式：792

15.5.1 性質

- 793 色で794 性のある固体
- 6水和物は795 色
- 塩化コバルト紙を用いた796 の検出
- CO³⁺ は797 と錯イオンを形成

15.6 硫酸ニッケル（Ⅱ）

化学式：798

- 黄緑色で潮解性のある固体
- 6水和物は青緑色
- Ni²⁺ は799 と錯イオンを形成

16 銅

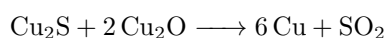
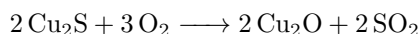
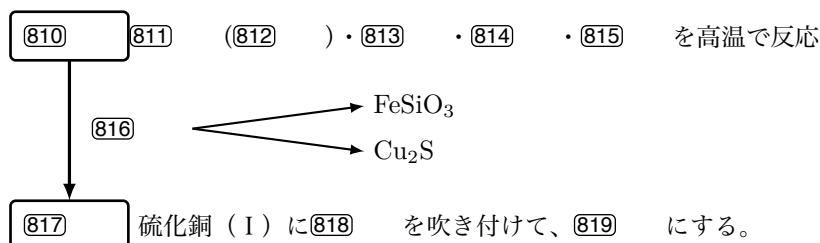
16.1 銅

16.1.1 性質

- ⑧00 色の金属光沢
- 他の金属とさまざまな色の⑧01
- 展性・延性が⑧02 く、電気・熱伝導性が⑧03 い
- イオン化傾向が水素より⑧04 く、酸化力のある酸と反応
- 空気中で徐々に酸化して、緻密な錆（⑧05 に溶解）が生成
⑧06 色の酸化銅（Ⅰ） 乾・⑧07 色の錆（⑧08 ） 湿

16.1.2 製法

銅の製錬 粗銅・⑧09 純銅 工業的製法



16.1.3 反応

- 銅と希硝酸

- 銅と濃硝酸

- 銅と熱濃硫酸

- 空気中で 1000℃ 未満で加熱して、⑧20 色の⑧21 生成

- さらに 1000℃ 以上で加熱して、⑧22 色の⑧23 生成

- 銅イオンから水酸化銅（Ⅱ）の生成

- 水酸化銅（Ⅱ）とアンモニアの反応

- 水酸化銅（Ⅱ）の加熱

16.2 硫酸銅（Ⅱ）5 水和物

16.2.1 性質

- ⑧24 色の固体（結晶中の⑧25 の色）

- 温度による物質変化

5水和物→^{102℃}〔826〕→^{113℃}〔827〕→^{150℃}〔828〕→^{650℃}〔829〕

〔830〕色←〔831〕色

+ H₂O（検出）

• Cu²⁺による〔832〕作用（農薬）

• 還元性を持つ有機化合物の検出*⁶
〔833〕色の酸化銅（Ⅰ）が生成

16.2.2 製法

銅に〔834〕をかけてから〔835〕。

16.3銅（Ⅱ）イオンの反応

	少々の塩基	過剰の NH ₃	濃塩酸	H ₂ S（ 〔836〕 ）
Cu ²⁺	〔837〕	〔838〕	〔839〕	〔840〕
〔841〕 色	〔842〕 色	〔843〕 色	〔844〕 色	〔845〕 色

• 炎色反応：〔846〕色

• 加熱すると〔847〕

• Cu²⁺は〔848〕と錯イオンを形成し、〔849〕とは形成しない

16.4銅の合金

〔850〕 （真鍮）	〔851〕 （洋白）	〔852〕	〔853〕	〔854〕
〔855〕	〔856〕	〔857〕	〔858〕	〔859〕 （主成分）
適度な強度と加工性 楽器・水道用具	柔軟で錆びにくい 食器・装飾品	柔軟で錆びにくい 五十円玉・五百円玉	硬くて錆びにくい 像	軽くて丈夫 航空機・車両

*⁶ フェーリング液・ベネディクト液

無機化学

33

空欄編

17 銀

17.1 銀

17.1.1 性質

- 展性・延性が⁽⁸⁶⁰⁾、電気・熱伝導性が⁽⁸⁶¹⁾
- イオン化傾向が水素より⁽⁸⁶²⁾
⁽⁸⁶³⁾ 力のある酸 (⁽⁸⁶⁴⁾ ・ ⁽⁸⁶⁵⁾) と反応
- 空气中で酸化しにくい、⁽⁸⁶⁶⁾ とは容易に反応

17.1.2 製法

- 銅の電解精錬の⁽⁸⁶⁷⁾ [工業的製法](#)
- 銀の化合物の熱分解・光分解

酸化銀の熱分解

ハロゲン化銀 AgX の感光

17.1.3 反応

- 銀と希硝酸

- 銀と濃硝酸

- 銀と熱濃硫酸

- 銀と硫化水素

17.2 銀（Ⅰ）イオンの反応

⁽⁸⁶⁸⁾ 水溶液に含まれる

	少量の塩基	過剰の NH ₃	HCl	H ₂ S (⁽⁸⁶⁹⁾ 性)	K ₂ CrO ₄
Ag ²⁺	⁽⁸⁷⁰⁾	⁽⁸⁷¹⁾	⁽⁸⁷²⁾	⁽⁸⁷³⁾	⁽⁸⁷⁴⁾
⁽⁸⁷⁵⁾ 色	⁽⁸⁷⁶⁾ 色	⁽⁸⁷⁷⁾ 色	⁽⁸⁷⁸⁾ 色	⁽⁸⁷⁹⁾ 色	⁽⁸⁸⁰⁾ 色

- 銀と少量の塩基

- 銀と過剰の NH₃

- 銀と HCl

- 銀と H₂S

- 銀と K₂CrO₄

17.3 難溶性化合物の溶解性

			HNO ₃	NH ₃	NaS ₂ O ₃	KCN
Ag ₂ S↓	(881)	色	(882)	(883)	(884)	(885)
Ag ₂ O↓	(886)	色	(887)	(888)	(889)	(890)
AgCl↓	(891)	色	(892)	(893)	(894)	(895)
AgBr↓	(896)	色	(897)	(898)	(899)	(900)
AgI↓	(901)	色	(902)	(903)	(904)	(905)
溶解している物質	(906)	色	(907)	(908)	(909)	(910)

18 クロム・マンガン

化学式：⑨11 ・ ⑨12

18.1 単体

18.1.1 性質

- ⑨13 と反応 (⑨14 は⑨15 には⑨16 となり反応しない)
- 空气中で錆び⑨17 (⑨18) \Rightarrow ⑨19 (Fe, Cr, Ni) **クロム**
空气中で錆び⑨20 **マンガン**
- ⑨21 合金 (Fe, Cr, Mn) (電熱線・発熱体)

18.1.2 反応

- クロムと希塩酸
 (Cr^{2+} ：青色)
- マンガンと希塩酸
 (Mn^{2+} ：⑨22 色)

18.2 クロム酸カリウム・ニクロム酸カリウム

化学式：⑨23 ・ ⑨24

18.2.1 性質

- 二つは平衡状態にある
⑨25 \rightleftharpoons ⑨26
⑨27 性・⑨28 色 ⑨29 性・⑨30 色
- ⑨31 剤として反応 **ニクロム酸カリウム**
 (⑨32 下)

18.2.2 製法

- クロム (Ⅲ) イオンに少量の水酸化ナトリウム水溶液を加える
- さらに水酸化ナトリウム水溶液を加える (過剰の水酸化ナトリウム水溶液を加える)
- 過酸化水素水を加えて加熱

18.2.3 反応

- クロム酸イオンと銀イオン
 (⑨33 色)
- クロム酸イオンと銀イオン
 (⑨34 色)
- クロム酸イオンと銀イオン
 (⑨35 色)

18.3 過マンガン酸カリウム

化学式：⑨36

18.3.1 性質

- ⑨37 色の固体
- ⑨38 剤として反応
- ⑨39 酸性
- 中・塩基性

18.3.2 製法

1. 酸化マンガ (IV) と水酸化ナトリウムを混ぜて空気中で加熱

(MnO_2 : ⑨40 色 / K_2MnO_4 : ⑨41 色)

2. (a) 酸性にする

(MnO_4^{2-} : ⑨42 色 / MnO_4^- : ⑨43 色)

- (b) 電気分解する

(⑨44 極)

18.4 マンガンの安定な酸化数

残留酸素の定量 (ウィンクラー法)

1. マンガ (III) イオンを含む水溶液に塩基を加える

2. 水酸化マンガ (II) が水溶液中の溶存酸素と速やかに反応

3. 希硫酸を加える

(⑨45 剤)

第 IV 部

APPENDIX

A 気体の乾燥剤

固体の乾燥剤は① につめて、液体の乾燥剤は② に入れて使用。

性質	乾燥剤	化学式	対象	対象外（不適）
酸性	③	④	酸性・中性	塩基性の気体（⑤ ）
	⑥	⑦		+⑧ （⑨ ）
中性	⑩	⑪	ほとんど全て	⑫
	⑬	⑭		特になし
塩基性	⑮	⑯	中性・塩基性	酸性の気体 ⑰ , ⑳ , ㉑ , ㉒ , ㉓ , ㉔
	⑰	⑱		

B 水の硬度

水の中の重荷 Ca^{2+} と Mg^{2+} を CaCO_3 として換算した時の濃度 [mg/L]

硬水に含まれる陰イオンが

煮沸する㉕ が沈澱して軟化可能（一時硬水）
 （例炭酸水素カルシウム水溶液

例炭酸水素マグネシウム水溶液

）
 煮沸しても軟化不可能（永久硬水）

C 金属イオンの難溶性化合物

	Cl ⁻	SO ₄ ²⁻	H ₂ S	H ₂ S	OH ⁻	OH ⁻	NH ₃
			酸性	中・塩基性	NH ₃	過剰	過剰
K ⁺	(26) (33) 色	(27) (34) 色	(28) (35) 色	(29) (36) 色	(30) (37) 色	(31) (38) 色	(32) (39) 色
Ba ²⁺	(40) (47) 色	(41) (48) 色	(42) (49) 色	(43) (50) 色	(44) (51) 色	(45) (52) 色	(46) (53) 色
Sr ²⁺	(54) (61) 色	(55) (62) 色	(56) (63) 色	(57) (64) 色	(58) (65) 色	(59) (66) 色	(60) (67) 色
Ca ²⁺	(68) (75) 色	(69) (76) 色	(70) (77) 色	(71) (78) 色	(72) (79) 色	(73) (80) 色	(74) (81) 色
Na ⁺	(82) (89) 色	(83) (90) 色	(84) (91) 色	(85) (92) 色	(86) (93) 色	(87) (94) 色	(88) (95) 色
Mg ²⁺	(96) (103) 色	(97) (104) 色	(98) (105) 色	(99) (106) 色	(100) (107) 色	(101) (108) 色	(102) (109) 色
Al ³⁺	(110) (117) 色	(111) (118) 色	(112) (119) 色	(113) (120) 色	(114) (121) 色	(115) (122) 色	(116) (123) 色
Mn ²⁺	(124) (131) 色	(125) (132) 色	(126) (133) 色	(127) (134) 色	(128) (135) 色	(129) (136) 色	(130) (137) 色
Zn ²⁺	(138) (145) 色	(139) (146) 色	(140) (147) 色	(141) (148) 色	(142) (149) 色	(143) (150) 色	(144) (151) 色
Cr ³⁺	(152) (159) 色	(153) (160) 色	(154) (161) 色	(155) (162) 色	(156) (163) 色	(157) (164) 色	(158) (165) 色
Fe ²⁺	(166) (173) 色	(167) (174) 色	(168) (175) 色	(169) (176) 色	(170) (177) 色	(171) (178) 色	(172) (179) 色
Fe ³⁺	(180) (187) 色	(181) (188) 色	(182) (189) 色	(183) (190) 色	(184) (191) 色	(185) (192) 色	(186) (193) 色
Cd ²⁺	(194) (201) 色	(195) (202) 色	(196) (203) 色	(197) (204) 色	(198) (205) 色	(199) (206) 色	(200) (207) 色
Co ²⁺	(208) (215) 色	(209) (216) 色	(210) (217) 色	(211) (218) 色	(212) (219) 色	(213) (220) 色	(214) (221) 色
Ni ²⁺	(222) (229) 色	(223) (230) 色	(224) (231) 色	(225) (232) 色	(226) (233) 色	(227) (234) 色	(228) (235) 色
Sn ²⁺	(236) (243) 色	(237) (244) 色	(238) (245) 色	(239) (246) 色	(240) (247) 色	(241) (248) 色	(242) (249) 色
Pb ²⁺	(250) (257) 色	(251) (258) 色	(252) (259) 色	(253) (260) 色	(254) (261) 色	(255) (262) 色	(256) (263) 色
Cu ²⁺	(264) (271) 色	(265) (272) 色	(266) (273) 色	(267) (274) 色	(268) (275) 色	(269) (276) 色	(270) (277) 色
Hg ²⁺	(278) (285) 色	(279) (286) 色	(280) (287) 色	(281) (288) 色	(282) (289) 色	(283) (290) 色	(284) (291) 色
Hg ₂ ²⁺	(292) (299) 色	(293) (300) 色	(294) (301) 色	(295) (302) 色	(296) (303) 色	(297) (304) 色	(298) (305) 色
Ag ⁺	(306) (313) 色	(307) (314) 色	(308) (315) 色	(309) (316) 色	(310) (317) 色	(311) (318) 色	(312) (319) 色

D 錯イオンの命名法

(主に遷移) 金属イオンに対して、(320) を持つ(321) や(322) が(323) 結合

「(配位子の数 (数詞)) (配位子) (金属 (価数)) (酸 (陰イオンの場合)) イオン」

金属イオン	Ag ⁺ Cu ⁺	Cu ²⁺ Zn ²⁺	Fe ²⁺ Fe ³⁺ Co ³⁺ Ni ²⁺ Cr ³⁺ Al ³⁺
配位数	(324)	(325)	(326)

(327) 系 (328) 形 (329) 形 (330) 形

数	1	2	3	4	5	6	7	8
数詞	(331)	(332) (339)	(333) (340)	(334)	(335)	(336)	(337)	(338)

配位子	NH ₃	CN ⁻	H ₂ O	OH ⁻	Cl ⁻	H ₂ N - CH ₂ CH ₂ - NH ₂
名称	(341)	(342)	(343)	(344)	(345)	(346)

エチレンジアミン … 1 分子あたり 2 か所で(347) 結合する (2 座配位子) (348) 錯体)

- [Zn(OH)₄]²⁻
(349)
- [Zn(NH₃)₄]²⁺
(350)
- [Ag(S₂O₃)₂]³⁻
(351)
- [Cu(H₂NCH₂CH₂NH₂)]²⁺
(352)

E 金属イオンの系統分離

